



市内大学生が制作した映画 第2弾 「ただいまと言える場所」DVD を市へ寄贈

昨年、市内2大学(中央学院大学・川村学園女子大学)の学生や高校生、社会人が、地元の活性化につなげるため市内を舞台に制作した映画「ただいまと言える場所」のDVDを、市へ寄贈いただくこととなりました。

映画「ただいまと言える場所」DVD 寄贈

日 時:3月24日(火)午前11時頃(市長定例会見内)

場 所:市役所議会棟1階 第一委員会室

出席者:(敬称略)

中央学院大学大学2年 本田 琉一郎
社会人 小侍 万桜
我孫子市長 星野 順一郎

本プロジェクトは、市内2大学の学生と市に縁のある学生、社会人が共同して映像制作を実施することを通し、市への愛着や誇りをより高めることを目的としています。第2弾となる本作品では、「居場所や帰れる場所」を表現しています。作品を鑑賞した方に、地域の中で生活する大学生と交流することが、豊かな人生へつながるということを感じていただくことを目的としています。

また、「ロケのまち」としての我孫子市をアピールできるように工夫し、我孫子により多くの人に訪れていただくきっかけとなるとともに、交流人口の創出にも貢献したいと考えています。



▲「ただいまと言える場所」DVD

【問い合わせ】

◎訪問について

我孫子市 企画総務部 秘書広報課
あびこの魅力発信室 担当:深田、奈良
電話:04-7185-2493

◎映画について

我孫子映画制作プロジェクト
担当:木暮、菅井
電話:080-9555-9764

メール:abikodomo790@gmail.com

映画「ただいまと言える場所」概要（※我孫子市市制55周年協賛事業）

【あらすじ】

ふるさとを嫌う新木羽来は、友人の下沼大地と、いつものカフェでたわいない話をしていた。

そこで、この町へ越してきたばかりの大学生、高野優花梨と出会い、ひよんなことから「町案内」をする羽目になってしまう。

この町に思い入れのない新木は気乗りしないまま同行するが、高野との交流やカフェの店主 久我たちの導きによって、町の魅力に心を動かされて――

【脚本】

中央学院大学 本田 琉一郎

千葉県立東葛飾高等学校 大熊 楓

【企画概要】

〈製作期間〉 7月19日から10月26日

〈制作参加人数〉 約25名（大学生、高校生、市民の方々など）

〈クラウドファンディング〉 10名の方に約6万5千円のご支援

サイト：<https://camp-fire.jp/profile/unitry/projects>

〈映画上映〉 中央学院大学あびこ祭、川村学園女子大学鶴雅祭（制作遅延により予告編の上映実施）、手賀沼ランタン～Xmas フェスティバル～、ラコルタ柏フェスティバル、中央学院大学ゼミナール

【反響～頂いた声～】

「前回よりも、作品としての完成度が上がっていると思った。」「今回のテーマが我孫子でしか作れないストーリーではなかった。」という声を頂きました。頂いた声を取り入れ、次回の作品制作につなげたいと思います。

【この作品で伝えたいこと】

○「居場所」や「帰る場所」の大切さを表現しています。

○人が自立しようとするとき、心のよりどころとなる居場所の存在は、とても重要なものだと思います。居場所がなければ、前に進むことも、後ろに退くこともできません。

○地元を一つの居場所の形としています。地元を知ること、地元の方と交流することが、自分の居場所を作る方法であると思います。

○この作品を通して、地元を離れた人や、離れるかどうか悩んでいる人たちが、いま一度自分の居場所に想いをはせ、そして一步を踏み出すきっかけになればと、考えております。

【主催団体】

任意団体 Unity

団体メンバー：中央学院大学 6名、川村学園女子大学 3名、中央学院高校 1名、
その他高校生 1名、大学生 2名、社会人 4名)

Instagram：https://www.instagram.com/ab_unity/



@AB_UNITRY



◀メンバーの大学生がデザインした、
市の鳥オオバンを使った団体ロゴマーク

【制作協力】

中央学院大学 地域連携カイギ部

川村学園女子大学 かわむらボ(サークル)

【撮影地】

手賀沼親水広場遊歩道、水の館プラネタリウム、オルタナティブ ラ・ルース、中央学院大学、
鳥の博物館、和カフェ TUMUGU、旧井上家住宅、我孫子市役所屋上、我孫子二階堂高
等学校、ファミリーレストラン跡地(旧レストランステラ)

【今後の予定】

- ・市内の大学生の活動の活性化につなげる
- ・制作した映画を用いて、我孫子市と市内2大学(中央学院大学・川村学園女子大学)
のPRに活用する